



いずみ

No.39

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 9



(酒井 広司 撮影)

《ILLOGICAL MOVEMENT》

川上 りえ

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 9 作者の言葉

この作品は、2010年、札幌の茶廊法邑というギャラリーの個展で展示したインスタレーション・ワークです。どこから来てどこへ行くのか分からない円形状の構造体が、ゆっくりと回転しながら大地を進行し続ける情景を想像して創りました。特殊なスケール感、速度感、浮遊感、無機質感を意図しました。突然、自分という存在が不在になるような、少し悲しく、不安であると同時に不思議と穏やかな気持ちにさせてくれる感覚の表現でもあります。

(川上りえ)

タイトル：「IILLOGICAL MOVEMENT」

(イロジカル・ムーブメント)

設置場所：作者蔵

制作年：2010年6月

素材：鉄

サイズ：W3000×D800×H3000mm×2体

サイズ：W2000×D800×H3000mm×1体

連載 宮の森の四季 9

本郷新記念札幌彫刻美術館

「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」(仮称)に期待して

係長 梅内 親治

開館30周年を記念して開催された平成23年度の展覧会は、札幌近郊に在住する作家さんを中心に全面的な協力をいただき、大好評のうちに終わることができました。期間中の入館者数は抽象彫刻30人展2,313人、具象彫刻30人展2,060人、抽象・具象彫刻60人展1,418人にのぼり、来館されたお客様は魅力あふれる作品に大いに満足された様子でした。第15回本郷新賞を加えると平成23年度の総入館者数は、2月末現在で8,000人を超え、平成6年以来実に17年ぶりの数まで回復することができました。初めて来館された方が増えたことはもちろん嬉しいのですが、リピーターの多くの方々から以前より見応えがあるとの声をいただき、大変元気付けられました。

さて、平成24年度は2月18日から開催のコレクション展「手が語る」—彫刻における手の表情—に続いて6月2日からの新しいシリーズ「となりの人」展がスタートします。彫刻、絵画、映像など多彩な表現を通して他者との距離、他者へのまなざしについて考える展覧会です。

そしていよいよ8月29日から9月2日まで友の会主催による「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」(仮称)が開催されます。会員はもとより会員外からの出品も予定されているとのことで、友の会発足30周年記念にふさわしい魅力的な展覧会になるものと大いに期待しております。彫刻美術館としても陰ながら援助させていただきたいと思っておりますので、より多くの方々が当美術館に足を運んでくださるようPRをよろしくお願いいたします。

友の会がめざすもの

彫刻美術館友の会会長 橋本信夫

私たち彫刻美術館友の会は昨年、設立30年を迎え、新年度は新たなステップを踏み出すこととなります。友の会が自主活動を始めた2004年ごろからは市内に点在する彫刻をパブリックアートとして、その特質と重要性に着目し、これらの調査や清掃などと積極的に取り組んできました。最近では野外彫刻資料のデータベース化や彫刻の解説、ガイドなどにも間口を広げ、「市民文化は市民の手で」をモットーに、幅広い草の根文化運動を展開しています。

「できる人が、できる時に、できることを、好きなだけ」というのが私たちの会の素朴な方針です。各自が興味、余暇、経験などをもとに多岐にわたるプログラムに参加しています。こうした活動を通じて友の会も時代の波にもまれながら柳のようになやかに、しっかりとした幹を持つ市民組織に成長してきました。会員数も2000年ごろの2倍近い180人に増え、最近では野外彫刻に特化した任意団体として高い社会評価を受けつつあります。その結果、過去十年余りのパブリックアートに対する会の地道な取り組みが市民に広く知られるところとなり、昨年7月、札幌市の「第3回さっぽろ環境賞」の環境保全・創造部門で特別賞を受賞する快挙につながりました。

友の会設立30年、人間で言えば30歳。中国の思想家・孔子の「論語」には「三十にして立つ」とあります。人間として独立するという意味がこめられています。友の会

の活動も今年はいよいよ30歳代の新たな時代に入ります。

そこで今年度は美術館支援や野外彫刻の調査、鑑賞、研修、解説、清掃、保全、広報など、従来の活動にとどまらず、特別事業として三つの企画を強力に推進しようではありませんか。

第1は「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」を成功させることです。8月28日から9月2日まで、本郷新記念札幌彫刻美術館で開く企画展です。市民が手作りで美術展を開催する画期的な計画です。全会員の知と力を総動員して取り組みましょう。

第2は全道各地に点在する野外彫刻のカタログ編纂と刊行です。野外彫刻の作者、タイトル、写真、所在地などをデータベース化し、地図に反映させる彫刻地図コンテンツ制作をめざします。

第3は札幌市内の彫刻の解説、清掃と保全活動の推進です。ここ数年来、着実に取り組んでいることですが、子供を対象にしたクイズラリーの実施のほか、セメント像の経年劣化の現状調査と保全にも力を入れたいものです。

これらの活動を一般市民や他団体と連携しながら、私たちのスローガンである「街なかの美を守ろう」や「市民文化は市民の手で」を掲げ、草の根ボランティアの手作りプログラムをみんなで楽しんでもらいたいと願っています。

ヨーゼフ・ボイスの「社会彫刻」——革命とは私たちなのだ！

堀田真紀子(北大大学院准教授=現代芸術文化論)

ドイツの現代芸術家、ヨーゼフ・ボイスは、究極の彫刻は社会を彫刻することだという、「社会彫刻」というアイデアを唱えた。それは、社会構成員である私たち一人一人が芸術家になることで、外圧的な力からではなく、内側から変わること。また、そんな人が社会に増えることで、社会がおのずから、下から良く変革されていく様子をさす。

私たち一人一人が芸術家になるといっても、それは、あらゆる人が絵を描いたり、楽器をひけといっているのではない。「芸術家」という言葉で彼が考えていたのは、本当に自分が正しいと思うことを、勇気をもって、自分の専門の職業や、自分がおかれた状況の中で形にしていく生き方である。今のような、硬直した社会では、私たちの職業生活のほとんどの場面で、私たちは自分が本当にやりたいことをやるができない。金銭その他の縛りによる外からの力に屈服させられている。でも、訓練次第で、芸術家のように自由に、自分の中から、自発的、創造的に生きることができるし、そうした方が社会のためにもなるんじゃないかというのである。

同じことを、中国系アメリカ人の社会活動家、グレース・リー・ボッグは、次のように言っている。「あなたが探し続けているリーダーはあなた自身だってことにそろそろ気づいていいころよ」と。芸術家のように生きることが、一人一人が現実を定義する文化創造者、リーダーになることだ。

しかしそれは、他者に何かを命令して、自分の意志を行なわせるリーダーになること、みずから「権力をとる」ことではない。そうすると、いまや自分が外から社会を形成する力にとってかわるだけ。権力の受け手から行使する主体に変わるだけで、一部の「させる力」に多くの人たちが「させられる」権力構造自体は、変わらないことになってしまう。全員がリーダーになり、それはあらゆる人が、「自分がやるしかない」と立ち上がることが、望まれているのである。

それは当然、責任感もともなう。「あなたが世界の中で見たい変化にあなた自身がまずなりなさい」といったのはガンジーだが、あらゆる人がリーダーになることは、あらゆる人が社会の未来に責任を持つことでもある。その半面、自らリーダーになれない、あなたまかせの依存心は、その結果できあがった現実に対する不平不満と手を携える。

お金も権力も、才能もない自分には、社会を変える力もないといった、無力さも、言い逃れにならない。内側からなされる社会変革は、私たちが所有する力や富、あるいはそこから帰結する他者に対する支配力、強制力の有無とは、何の関係もない。変化はむしろ、何も持たない私たちの存在そのもの、生き様そのものからしか生まれえないということでもあるのだから。ボイスが繰り返しのべていた言葉をかりれば、「革命とは私たちなのだ」。

縄文時代の造形—国宝「中空土偶」

函館市縄文文化交流センター館長 阿部 千春

この土偶は1975年の夏、太平洋を望む函館市尾札部(旧南茅部町著保内野)の畑において、ジャガイモの収穫をしていた地元の主婦によって偶然発見されたものです。鍬の先がガツンと当たったので、掘り出してみたらジャガイモではなく目と鼻の付いた人の顔が出てきたので腰を抜かすほど驚いたとのことです。

発見された土偶は立像で、中が空洞に作られていることから「中空土偶」と呼ばれています。高さ41.5cm、幅20.1cm、重さ1,745gと中空のものとしては国内最大で、三叉状入組文や短刻のある粘土紐などの文様から縄文時代後期後半(約3500年前)に作られたと考えられています。製作時には黒色漆の上に赤漆が塗布されていたのですが、剥離が激しく、現在は髭状の刺突孔や耳穴などの窪みに黒色漆の付着が見られるのみで、赤漆は内股の一部に僅かに確認できる程度です。ほぼ完形であることや造形的にも優れていることから1979年に重要文化財に指定され、その後2006年に実施した出土地の発掘調査を経て、2007年6月8日に北海道初の国宝に指定されています。

造形的に見ると、まっすぐ立っているようですが、土偶の顔はやや右上を向き、胸から垂下

する正中線が腹部で左に傾いていることにすぐに気がつきます。当初は、意図的にシンメトリーを避けたのか、あるいは製作上の誤差で



であろうと気に留めませんでした。デジタル写真による実測図をPCの画面上で重ね合わせたところ意外なことがわかりました。腰が右方向に少し捻られ、右足が前に出て、反対に右の肩が後ろに引かれているのです。これは偶然ではなく、人間が歩く際の動作や反応の身体的特徴と見事に合致しています。

人間が右足を踏み出した場合、その動作に伴って腰は身体の軸に対して左回りに、肩は右回りに捻られ、顔も自然と右を向きます。土偶の踏み出しは僅か15mmですが、土偶の作り手は冷静な人間観察に基づいてこの土偶を造形しているようです。膝の屈折や腕の組み合わせなど、ある動作を表した土偶を「ポーズ土偶」と通称していますが、中空土偶も「歩く」という動作を示していることからポーズ土偶の範疇で考えることができます。同様に、長野県茅野市棚畑遺跡出土の国宝「縄文のビーナス」もこの歩くというポーズを表しています。しかも、両者とも土偶だけでは倒れてしまい、自立出来ないという共通点もあるのです。中空土偶はどこへ歩み出そうとしているのでしょうか、謎は深まるばかりです。

盛況！2012年友の会新年会

多彩な余興に酔う

夫婦漫才、シャンソン、パンフルート、ピアノ演奏

札幌彫刻美術館友の会の2012年新年会が1月28日、札幌・中島公園のホテル「ノボテル札幌」で開かれ、友の会結成30周年を祝って盛り上がった。

橋本信夫会長が「友の会も30年を迎え、今年もエネルギッシュに活動しよう」と挨拶、会員の伏木忠了さんが乾杯の音頭を取って開幕した。30周年を機に、創立以来、長年、会の活動に尽くした会員への感謝状贈呈が行なわれ、濱久子さん、原寿子さんらに橋本会長がねぎらいの言葉をかけながら感謝状を手渡した。このあと、友の会の30年の活動をたどる写真や映像がスクリーンに映し出され、長い足取りを振り返った。

このあと余興に入り、会員の高橋昌宏、淑子さん夫妻の玄人はだしの漫才コンビが登場して会場に笑いを誘ったほか、細川房子会員が流麗なシャンソンを披露するなど、例年以上の盛り上がり。さらに、昨年、中島公園の彫刻「猫とハーモニカ」がきっかけで交流が始まったパンフルート演奏家・竹笛太郎さん（本名・横地太郎）が愛媛県から駆けつけて美しいメロディーを奏で、若手ピアニスト、教育大音楽科の星洋樹さんが華麗なピアノ演奏で会場をうならせた。フィナーレは男性会員らが壇上に上がり、会場と一緒に「みあげてごらん夜の星よ」を歌ってにぎやかに新年会を締めくくった。



写真上左からシャンソンの細川さん、パンフルート竹笛さん、2 段目夫婦漫才の高橋さん、3 段目ピアノの星さん、最下段は男性コーラス

友の会 30 年の活動に尽力

濱さんら 8 人に感謝状

札幌彫刻美術館友の会は結成30周年を機に創立以来、会の活動に貢献した会員への感謝状贈呈を決め、1月28日の新年会の席上、橋本信夫会長から感謝状を手渡した。

感謝状を受けたのは大久保志絵子、小尾陞、柏村

知子、斎藤公美雄、斎藤美年子、仲野三郎、濱久子、原寿さんの 8 人。感謝状を受けて濱さんが「会の 30 年に歩に思いを新たにしました。ますますの発展を」と謝辞を述べた。新年会に欠席した会員には後日、感謝状を発送した。



友の会企画展へ

太陽地域財団助成金 50 万円

札幌彫刻美術館友の会が今年8月に開催を予定している企画展「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」(仮称)に公益財団法人太陽北海道地域づくり財団から助成金50万円の交付が決定、2月10日、札幌・グランドホテルで贈呈式があり、橋本信夫会長に同財団東原俊郎理事長から目録が手渡された。

同財団は地域コミュニティを高める地道な活動に対して2001年から助成を行っており、今回は友の会を含め、19事業、23団体に総額1371万円を交付する。



ゆきあかりin中島公園 2012

キャンドルに願いを込め

友の会 今年も参加

冬の札幌・中島公園を彩る「ゆきあかりin中島公園」が今年も2月10日から12日まで催され、彫刻美術館友の会も昨年に続いて参加、紙コップのキャンドルを灯して公園の夜を演出した。

約700個の紙コップを用意し、公園を訪れる観光客などに思い思

いのキャッチフレーズを書いてもらい、雪の壁に飾った。今年は紙コップを雪の壁に穴を開けて納める「横穴式紙コップ置き場」を採用したため、ローソクの灯が最後まで消えることがなく、参加者からも喜ばれたという。

キャンドルには「原発が収束して早く美しい日本に」「がんばれ日



本」など東日本大震災の被災者を励ます言葉も目立ったほか、ハンゲル文字のキャンドルもあり、国際色も豊だった。

2012 年度友の会総会

5月19日 土 開催

会場は札幌市民ホール

札幌彫刻美術館友の会2012年度総会を5月19日午後1時から札幌市民ホール(中央区北1西1)で開会することが決まった。

8月開催予定の友の会企画展「市民が愛蔵するコレクション展」開催などの新年度活動計画、同予算案などを決めるほか、会則の見直し、役員改選などの議題も予定されている。

また、総会に引き続き、北村清彦

北大大学院教授を講師に招いて講演会も計画している。

友の会 DVD シリーズNo.8作

「下沢敏也の創作活動」完成

友の会が札幌市視聴覚センター「ちえりあ」の委託を受けて制作した DVD シリーズ第8作が完成した。

今回は陶彫家・下沢敏也さんに焦



点をあて、「下沢敏也の創作活動」のタイトル。下沢さんが昨年、小樽・銭函で開催された「ハルカヤマ芸術要塞 2011 展」に向けた作品制作活動全般を追い、サブタイトルは「ハルカの土を焼く」。制作初日から乾燥、焼成、粘土原型作製など16分間の映像に収めた。

友の会企画展への

ご協力ありがとうございます

友の会主催の企画展「市民が愛蔵する彫刻コレクション展」(仮称)に向け寄付金募集を呼びかけましたところ、会員ほか多くの方から2月末現在でおよそ20万円の協力申し出がありました。ありがとうございます。なお、企画展成功を目途に寄付金受付を行なっていますので久本まで振替用紙をご請求ください。(事務局)

事務局日誌

▼1月3日＝太陽財団より企画展のための助成金交付認可の通知
▼12日＝1月定例役員会(友の会企画展、新年会など協議)▼28日＝ホテルノボテルで2012年新年会開催▼2月9日＝2月定例役員会(彫刻企画展、新年度総会、会報39号編集など協議)▼10—12日＝ゆきあかりin中島公園2012に参加▼15日＝札幌・ちえりあから委託の視聴覚教材DVD「下沢敏也の創作活動」完成▼3月8日＝3月定例役員会(企画展、新年度総会などを協議)▼1月から3月にかけて、仲野彫刻写真コレクションのデータベース化作業が進む。

編集後記

今号では2編の寄稿原稿がそろいました。堀田真紀子さん「ヨーゼフ・ボイスの—」は私たちに芸術家のように自由に、創造的に生きることの必要性を説く、示唆に富んだ論考。また、阿部千春さんは北海道開拓記念館で開催中の「北の土偶」の目玉、「中空土偶」鑑賞には欠かせない格好のガイドとなりました。超多忙の中、原稿を寄せていただいたお二人に感謝します。(大内)

札幌彫刻美術館友の会会報 「いずみ」 No.39

2012年4月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」39号 目次

自作自選 9 《ILLOGICAL MOVEMENT》 川上りえ	表紙
作者の言葉	2
宮の森の四季 9 「市民が愛蔵する彫刻コレクション展に期待して」 梅内親治	2
巻頭言「友の会がめざすもの」 橋本信夫	3
「ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻」 堀田真紀子	4
縄文時代の造形—国宝「中空土偶」 阿部千春	5
友の会ニュース	6—7
友の会新年会、8人に感謝状贈呈、太陽交付金贈呈式、ゆきあかりイン中島公園、友の会総会案内、視聴覚DVD第8作完成ほか	
事務局事務局日誌、編集後記、彫刻美術館行事予定ほか	8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■コレクション展「手が語る—彫刻における手の表情—」

会期：開催中～5月13日日

■(貸し館)「鈴木吾郎」展

会期：5月15日火～5月27日日

北の彫刻展に代わる新シリーズ

■「となりの人」展

会期：6月2日土～8月26日日

記念館

■本郷新が最期に描いたキリスト像

会期：開催中～4月8日日

■本郷新が愛したコレクション

会期：4月10日火～9月2日日

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>